

## 新型コロナウイルス感染症海外短信 — ドイツ I

2021年2月20日

加久間 景子\*

### 1. 一般的状況

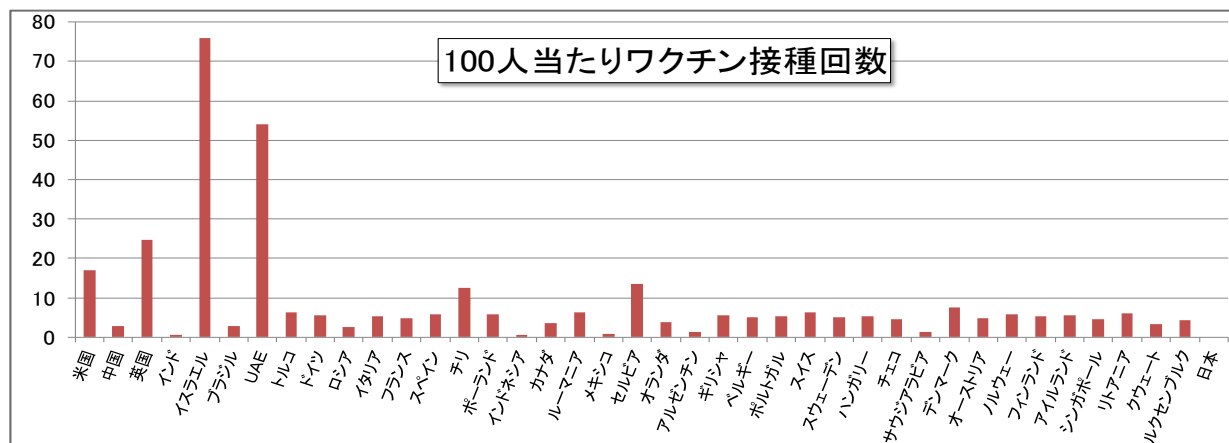
AstraZeneca が EU との間で締結した契約通りのワクチンの供給を行っていない（当初 EU には 1/5 しか届かない）ため、国内的議論になった。EU 当局もワクチン調達契約に関してミスがあったことを認めているが、同社のワクチン在庫が急減したことから他国（イギリスも含め）に流れたのではという疑念は残っている。結果的には、議論の末、早い段階で契約の半分までは実行されることとなった。この背景には、イギリスオックスフォード大学とスウェーデン企業である AstraZeneca に対して EU がこれまで多額の研究資金を拠出して、及び Pfizer ベルギー工場の整備、拡大工事が計画通りに進んでいないことがある。また、イギリスの変異型ウイルスがドイツにもかなりのスピードで蔓延している（2週間前に 6% だったのが現在 22% に上昇している）こともイギリス・EU 間の緊張状態の原因の一つとなっている<sup>1</sup>。

これらの結果、EU は緊急措置として域外に出るワクチンの検査を厳しくした。このため日本等へのワクチン流通に制約がかかっているのかも知れない。先日、河野大臣が日本へのワクチンの配布及び輸送は、ヨーロッパのワクチンの需給が回

復すれば同時に正常化するとジャーナリストに答えていたが、上記の事情があり簡単ではない。

当初の EU 政策は、世界規模で新型コロナ撲滅を考えて、先ず EU 内でワクチンが均等に配布される対策、特にワクチンの価格競争が起きないことであり、これは EU 内では成功したと言える。BioNTech /Pfizer のワクチン価格は当初 56 ユーロ/1 カプセルであったが、現在 EU では 15 ユーロ/1 カプセルにまで下がっている。但し、現在供給増のために価格を上げることが要求されているとも言われる<sup>2</sup>。イスラエルのワクチン調達及び接種が世界一の早さで進んでいるが、（副作用等の結果を報告するとの条件に加えて）3 倍の価格で買い付けたとも言われている。アメリカとイスラエルの間の取引なので正確なところは分からない。

他方、明るいニュースもある。ドイツで BioNTech/Pfizer の製造が Mainz で始まり、ワクチンカプセルの生産体制が整いつつあることが報じられている。また、保存温度がマイナス 90 度から 60 度を必要とされていたが、近々マイナス 35 度から 25 度でも可能となる見込みがあると報じられている。



\* 在ドイツ音楽家。なお、本稿は、加久間景子氏からの情報提供を本財団理事長光多長温がまとめたものである。  
<sup>1</sup> この点について、イギリスは、AstraZeneca のワクチンを EU が承認する前に独自に承認したこと等を主張している。  
<sup>2</sup> 日本のワクチンがいかなる価格で調達されたか公表されていない。

## 2. ワクチン接種

ドイツのワクチン接種は原則的に下記順番で行う計画である。但し、諸情勢に応じ適宜変更されつつ進められている。AstraZeneca ワクチンは64歳迄を対象に接種されることとされ、第二、第三グループで医療関係者・教師等を対象に接種が始まっている。80歳以上で少なくとも施設入居の方は全て終わっている。メルケル首相は、現在までの遅れ等も考慮に入れると、8月21日迄に全国民に接種招待通知を行うことができるとの見解を出している。総選挙があり、この日程が決まったのかも知れない。

### 【ワクチン接種順番】(2020年12月発表)

#### (1) 第一グループ

- ①80歳以上の高齢者
- ②介護施設及び高齢者施設入居者
- ③その施設で働く全ての人
- ④自宅介護に携わる人(訪問介護)
- ⑤医学的施設で危険度の高い部門に携わる人(例えば検査・研究室など)
- ⑥直接、コロナの感染者の世話をする人(病院の緊急事態を受け付ける医者も含む)

#### (2) 第二グループ

- ①70歳以上の人
- ②精神病・痴呆症などの人、その介護者
- ③移植手術者、その世話人
- ④妊婦、そしてその世話人
- ⑤全ての医者(特に患者と直接接触のある)
- ⑥危険を伴う可能性がある警察官
- ⑦ホームレス、難民の施設にいる者、その世話人
- ⑧一般の保健所関係者

#### (3) 第三グループ

- ①60歳以上の人
- ②持病、たとえば心臓病、糖尿病の人
- ③医学的施設で危険性の低い人
- ④公の仕事の携わる人、政治家・議員など
- ⑤教育者・教師
- ⑥生活保護者
- ⑦その他、危険な職業従事者、ゴミ集めなど(一例)

#### (4) 第四グループ

- ・60歳以下の全ての人

全て無料で行われる。ワクチンを受ける場所は、各地域で大きくかつあまり使われていない建物、交通の便の良い所が指定され、かなりのボランティア団体が動いている。動けない人達のためには家庭訪問接種もある。

予約方法は、ワクチンが届いた、あるいは届く見通しがついた段階で各州政府から通知(手紙)が届けられ、予約開始日が知らされる。媒体として電話又はインターネットで行われる。当初から2回分の予約日程を決めている<sup>3</sup>。

## 3. ワクチン接種の効果

ワクチン接種の効果は、(イギリスの見解と同じく)重症になる割合が減少することはあるが、再度感染、発病する可能性のリスクは残るとの見解である。他人に感染させるリスクは、イスラエルでのBioNTechで、一度目の接種で42%以上、二度目の接種で50%以上が他人に感染させるリスクがなくなったとの報告がなされている。ドイツ政府は、当初から人口の60%の接種を終わらせないと効果が出ないとこのことで、接種してもホームステイ及び今取られている対策から解放されることは難しいとの見解である。

ワクチン接種等のコロナ対策により感染者が減れば、営業休止を余儀なくされている食料品店や公園が制限されている文化関係等が正常化されることが期待されている。しかし、現在のシャットダウンにより感染者がかなり減っていたものの、この1週間で横ばい乃至増える傾向が如実となっており、これは完全に変異性ウイルスの影響と理解されている。従って、当面对策を続け、ワクチン接種を強化させることに力点を置かざるを得ない状況にある。

AstraZeneca はイギリスの変異性ウイルス(B.1.1.7.)に対しては効果があるとの結果が出ているが、南アフリカ変異性ウイルス(B.1.351)には効果が認められず南アフリカ政府は製造国インドに

<sup>3</sup> この点は、イギリスとは異なる。筆者の印象として、イギリスに比べガッチリした計画を立てて、その中では(外部環境が変化するのでやむを得ないが)ドイツにしては結構弾力的に進めているとの印象を持った。

ワクチンを送り返したとのことである。また、イスはこのワクチンの有効性が70%に留まっていることから、このワクチン接種を中止することを検討していることと昨日発表した。

日本でも報道されているが、イスラエル保健省は20日、ファイザー製ワクチンを2回接種して2週間経った場合、未接種の場合と比べ、死亡に至ることを防ぐ効果が約99%だった、重症化や感染についても95%を超える高い予防効果がみられたと発表した。しかし、その後、ドイツで詳細な説明があり、2度の接種後では99%の効果があったという意味で、最終的な数字はやはり「感染が移ることはない確率90%」ということに修正された<sup>4</sup>。このように、日替わりのように様々な情報が飛び交っている。現在必要なことは、変異性ウイルスに効果があるワクチンの開発、及び生産増、接種である。それまでは、依然として、医学用マスクの装着、人とのコンタクトを極力控えること、常に2mの間隔を保つこと等当面様々な制限を続けざるを得ない状態が続くものと考えられる。ワクチンと変異性ウイルスとの戦いはまだまだ続く！

加久間景子氏からの新型コロナ感染症関連の報告を聞いて、歴史に裏打ちされたものとはいえ、ドイツの国際情報収集力と外交力、それに国民への情報伝達、それも政府の失敗を含めて率直かつスピーディな情報伝達の凄さに驚かされる。わが国のような情報の出し方をすれば恐らくドイツ国民は納得しないであろうし、拙い結果になった時の責任の取り様がないのではないかと感じた。

(以上)

---

<sup>4</sup> このワクチンはBioNTechであり、このワクチンの発見者はトルコ人ドイツの季節労働者の2世(現在はドイツ国籍)で、Pfizerとの提携関係にあり、昨年2月前アメリカ大統領トランプが私財で買い上げようとしてEUが支援することによりこれを阻止した経緯がある。